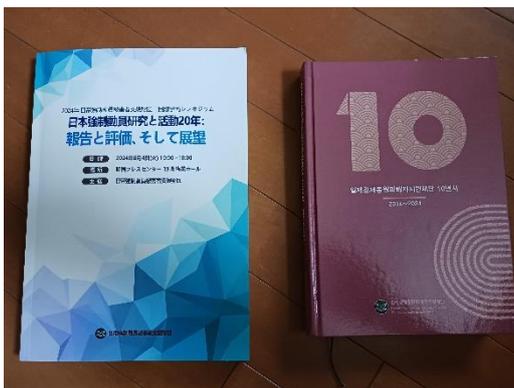


「日本強制動員研究と活動20年」シンポジウム(ソウル)、富平フィールドワーク、そして、仁川移民史博物館の『むくげ通信』

飛田雄一

(『むくげ通信』325号(2024.7.28)より)

6月4日、ソウルでのシンポジウムに参加した。会場はソウル市庁すぐ北のプレスセンター19階、主催は日帝強制動員被害者支援財団。テーマは、「日本強制動員研究と活動20年—報告と評価、そして展望」。私は、真相究明ネット年の歩みを報告した。むくげ通信323号(2024.3.31)に書いた内容だ。もともとこの報告のために書いたのだった。今回、報告用に書き直すつもりだったが、ほぼそのままの内容だった。いつものことだとの声が聞こえてきた？



左、シンポジウム報告集。韓国語・日本語、A4、368頁。どちらから開いてもOKという製本でおもしろい。/右、日帝強制動員被害者支援財団10年史。B5、527頁。

私の報告は最初、20分。むくげ通信の内容をかいつまんで報告した。報告の全体は以下のとおり。日本からのzoom報告もあった。便利なものだ。

- ・ 強制動員真相究明ネットワーク」の歩み—2005年～2024年 飛田雄一
- ・ 日韓条約—法の脱構築と「過去の克服」—近年公開された日韓会談文書から 太田修 zoom
- ・ 強制動員問題に関する近時の韓国での議論(肩代わり案) 吉田邦彦
- ・ 『戦後補償運動』の歴史と課題—強制動員訴訟を軸に 矢野秀喜
- ・ 日本製鉄訴訟 大法院判決の意義と第三者弁済案の問題点 中田光信 zoom
- ・ 不二越強制連行・強制労働訴訟 経過と闘い

中川美由紀 zoom

- ・ 朝鮮人強制労働・歴史否定論の特徴 竹内康人
- ・ 群馬の森の朝鮮人追悼碑撤去について 川口正昭 zoom
- ・ 強制連行・強制労働の展示 荻原みどり zoom
- ・ 佐渡鉱山のフルヒストリーを考える—1601年～1989年、そして現在まで 吉澤文寿
- ・ 「朝鮮人遺骨問題」のこの10年を振り返って 小林知子
- ・ 郵便貯金通帳を一日も早く遺族のもとへ 小林久公



左、遊歩道の西入口/右、夕方にはアベック(これはもう冗言か)

久しぶりに李元徳、金旻榮、呉日煥、韓恵仁、南相九、鄭惠瓊に会った。司会、コメンテーターとして参加されていた。懇親会会場では、別懇親会中であつた金敏喆、申珠伯にも会えた。その後、ひとりで清溪川を散歩した。翌朝にも散歩した。木も大きくなって年々落ち着いた感じとなっている。

翌6月5日はフィールドワーク。まず「富平地下壕」跡を訪ねた。アジア・太平洋戦争の時期、小高い山に多くトンネルが掘られた。日本陸軍の造兵廠(ぞうへいしょう)である。それは、「東京第一・東京第二・相模・名古屋・大阪・仁川・南満の各地に置かれた」(ウイキ)とある。

富平造兵廠の一部は現在も米軍管理下にあり立ち入ることはできない。民有地部分に入ることができた。

2016年までこのトンネルがなんの目的でつくられたものかわからず、エビの塩辛の貯蔵倉として利用されていた。解放(敗戦)までに完成しな

かったが保存状態はいいと思った。完成したらとても大きな規模になっていたものと思われる。

2017~2019年には保存運動に関連して、市民による演劇、人形劇など文化公演も行われた。



富平地下壕案内図、富平文化院発行の冊子より

ちょうど保存をめぐる微妙な時期で記事には「国防部和仁川市は7日、仁川陸軍工廠(富平キャンプ)のアーセナル病院の建物を予期せず取り壊したが、学者や市民社会からの批判を受け、11日に「解体を一時的に中断する」ことを決定した」とある。そして、「(飛田は)仁川陸軍兵器廠は、韓国、日本、中国、北朝鮮の歴史認識のギャップを埋めることができる重要な遺物です」と強調とある。

「市民による演劇、人形劇など」であるが、富平文化院発行の冊子にあるQRコードからその内容を見ることができる。右がそのQRコードである。むくげ通信印刷の精度の問題で、そのホームページにたどりつけるかが問題だ。でもチャレンジしてほしい。



動画／富平洞窟の歌、影絵人形劇、演劇セナムメの春、人形劇・独立その日の記憶



実際にその地下壕のひとつに入った。1990年ごろから故鄭鴻永さんと全国のいろんな地下壕に入ったことを思い出した。また地下壕の専門家でタチソ保存運動にもかかわっていた塚崎昌之ともいろんなトンネルに入った。残念ながら昨年亡くなった。今回いっしょに富平に行くことができたらいろいろな話を聞くことができたとと思う。

(塚崎さんの追悼文集は、青丘文庫研究会のホームページ <https://ksyc.jp/sb/> からダウンロードが可能です)

2022年11月、私は中央日報(ソウル)からこの富平地下壕保存の件でインタビューを受けた。同月13日の紙面で紹介されている。

富平ではもう一カ所、徴用労働者像と少女像のある公園を訪ねた。



左、徴用労働者像／右、少女像。

労働者像は「仁川・日帝強占領期徴用労働者像<解放の予感>」。「日本陸軍のよって建設された南韓最大規模(富平公園一帯)の兵器廠である“造兵廠”を中心として施行された徴用と人権蹂躪、労働搾取、そしてその状況からの解放を主題に製作された作品である」(銘板)。作者はイ・ウオンソク、2017年8月12日に除幕式が行われた。

少女像は、「仁川平和の少女像」。「いま私たち

は痛みと侮蔑の悲しみの歴史を清算し、ハルモニらの名誉と人権を回復すると同時に、戦争に反対し平和を守るために、仁川市民の意志を集め平和の少女像を建設した」(銘板)。作者キム・チャンギ、2016年10月29日序幕。



その後、ソウルにもどり植民地歴史博物館を訪ねた。「強制動員被害者運動記録写真展(5.24~7.21)」が開かれていた。李熙子さんらと記念写真をした。その記録展の写真には、私の写真もあった。また学生センターでの「慰安婦」集会の写真もあった。上手ではない私の看板の「筆字」、最近パソコン字が多いので目立って?いた。最近休んでいるがまた復活しよう。



私にはもう一日あった。5月のURM協議会のときには大田までほんとにピストン往復で残念に思っていたので、余裕の日程にした。(既報、むくげ通信324号「韓国・大田「<移住民-URM>国際シンポジウム」に行ってきました」)



仁川の移民史博物館に行くことにした。今回シンポジウム参加の小林知子さんお勧めの博物館だ。シンポジウム後に

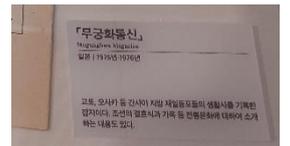
博物館経由で仁川空港に向かった小林さんから、そこに『むくげ通信』が展示してあったという連絡が入った。これは、行かねばならない。

あった。33号(1975.11.30)と35号(1976.3.28)。なつかしい。32号は、研究報告「大寿堂鑑定書」と在日朝鮮人の法的地位、飛田雄一/時評、在日韓国人留学生の不当逮捕、堀内稔/寄稿、米国にいる韓国人(1)鄭大均/人物朝鮮史(12)姜宇奎、鹿嶋節子/翻訳『朝鮮に於ける資本主義の発展』(3)、佐久間英明/史片(1)「漢城旬報」北原道子/書評『イムジン江をめざすと

き』八巻貞枝/権域(18)朝鮮の結婚式、大西ひとみ/翻訳『日本の歴史教科書にあらわれた韓国』あとがき、上田紀子など

35号は、研究報告「朝鮮語学習案内」佐久間英明/随想、私的「山村政明」論、金英達/書評『韓国人—その意識構造—』山根俊郎/権域(20)朝鮮の家屋、堀内稔/史片(3)元山ゼネスト、北原道子/寄稿、米国にいる韓国人(3)、鄭大均/翻訳、李泳禧『日本再登場の背景と現実』(1)、山根俊郎、金英達/随想、韓国美術五千年展を観て、佐久間英明などだ。

展示のキャプションは、「京都、大阪など関西地方在日同胞の生活史を記録した雑誌。朝鮮の結婚式と家屋など伝統文化について紹介する内容もある」。



思い出したが、移民史博物館の準備段階で、その関係者が学生センターを訪問されたことがある。若い女性おふたりでむくげの会とも交流し、小宴会も開いた記憶がある。その時にむくげ通信をどっさり?進呈したのだ。こんな形で展示されていることは光栄である。



左:海外同胞展示の一角/その右下にむくげ通信がある。キャプションの拡大図および翻訳は上記。



毎度のことだがソウルでも観光案内所があればかならず立ち寄る。今回もそうしたが、ことごとく日本語の地図がない。日本からの観光客が多いから品切れになっているようだ。

そこで私の、ハングルの読める人へのお勧めは中国語の地図。ハングルと漢字があるので便利だ。



地下鉄の駅名などでも漢字があると分かりやすいし覚えやすい。中国語(大陸)より台湾語のものがあればさらに漢字が分かりやすいと思うがそれはなかった。

